

製品名: Bim (リン酸化 Ser59) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04319**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:20000-1:40000

分子量

抗原情報

遺伝子名	BCL2L11
別名	BCL2L11; BIM; Bcl-2-like protein 11; Bcl2-L-11; Bcl2-interacting mediator of cell death
遺伝子 ID	10018.0
SwissProt ID	O43521
免疫原	抗血清は、Ser59 のリン酸化部位周辺のヒト BIM 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 31-80

背景

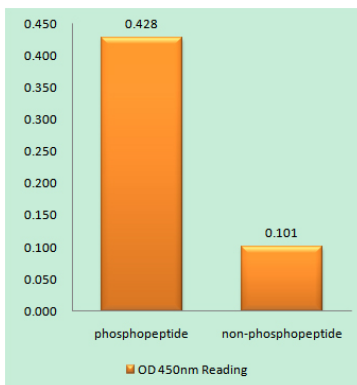
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、BCL-2 タンパク質ファミリーに属します。BCL-2 ファミリーのメンバーはヘテロマ

たはホモ二量体を形成し、幅広い細胞活動に関与する抗アポトーシスまたは促進アポトーシス制御因子として機能します。この遺伝子によってコードされるタンパク質には、Bcl-2 相同ドメイン 3 (BH3) が含まれます。これは、BCL-2 タンパク質ファミリーの他のメンバーと相互作用し、アポトーシス活性化因子として機能することが示されている。この遺伝子の発現は、神経成長因子 (NGF) だけでなく、フォークヘッド転写因子 FKHR-L1 によっても誘導できるため、この遺伝子がニューロンおよびリンパ球のアポトーシスで役割を果たしていることが示唆されています。マウスの対応遺伝子のトランスジェニック研究では、この遺伝子が胸腺細胞陰性選択におけるアポトーシスの重要な開始因子として機能することが示唆されました。この遺伝子の選択的スプライシングを受けた転写バリエーションがいくつか同定されています。[RefSeq 提供、2013 年 6 月],ドメイン: BH3 モチーフは、Bcl-2 の結合および細胞毒性に必要です。機能: アポトーシスを誘導します。アイソフォーム BimL は、アイソフォーム BimEL よりも強力です。アイソフォーム Bim-alpha1、アイソフォーム Bim-alpha2、およびアイソフォーム Bim-alpha3 はアポトーシスを誘導しますが、アイソフォーム BimEL、BimL、および BimS ほど強力ではありません。アイソフォーム Bim-gamma はアポトーシスを誘導します。類似性: Bcl-2 ファミリーに属します。細胞内局在: 細胞質内膜に関連します。サブユニット: MCL1、BCL2、BCL2L1 アイソフォーム Bcl-X(L)、BCL2A1/BFL-1、および BHRF1 を含むいくつかの抗アポトーシス Bcl-2 タンパク質とヘテロ二量体を形成します。BAD、BOK、BAX、BAK などのアポトーシス促進タンパク質とはヘテロ二量体を形成しません。組織特異性: アイソフォーム BimEL、アイソフォーム BimML、アイソフォーム BimS が主要なアイソフォームであり、組織特異的な変異を伴い普遍的に発現しています。アイソフォーム Bim-gamma は小腸と結腸で最も多く発現し、脾臓、前立腺、精巣、心臓、肝臓、腎臓でも低レベルで発現しています。、

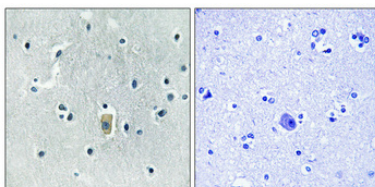
研究分野

幹細胞経路; PI3K/Akt

画像データ



BIM (リン酸化 Ser59) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。